

Fukumimi かわらばん

2010年1月9日
発行者 SON東京 ファミリー委員会

今回はすこし考えたいテーマ「コーチ不足」について取り上げました。よく考えてみましょう。

これからのスペシャルオリンピックス日本・東京を考える(コーチ不足)

会員の状況

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
正会員	476	651	870	984	1034	1150
賛助会員	823	511	659	573	509	450

正会員の数は過去5年間(2004年~2009年)で674名増加、賛助会員は373名の減少、合計では301名の増加です。全体の会員数は伸びている一方、賛助会員から正会員へのシフトがファミリーを中心に増えております。

アスリートの状況

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
登録数	792	782	867	973	1110	1200
活動数	502	513	652	696	765	845

アスリート数は過去5年間で408名増加、実際にプログラムに参加している数も343名の増加をしております。1年間では平均70~80名のアスリートが新たにプログラムに参加していることとなります。

ボランティアの状況

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
活動数	510	556	812	645	665	690

ボランティア(コーチ含む)は過去5年間では180名しか増加しておりません。1年間では平均36名の増加に留まっています。2004年にはボランティア1人あたりアスリート1人でしたが、2009年にはボランティア1人あたりアスリート1.2名に拡大しています。(活動数ベース)

上の3つの表はSON東京の会員、アスリート、ボランティアの過去5年間の推移をまとめたものです。右の注記のとおりですが、会員数、アスリート数の増加に対してボランティア数の伸び悩みが顕著になっています。2009年のプログラム実施時(ある月の土日)にサンプル抽出してみたところ、アスリート参加数は649名に対してコーチ数320名(一般ボランティア107名、ファミリー203名)という結果がでました。一般のボランティアの参加アスリート比は5人に1人という結果であり、どのプログラムもファミリーコーチに依存している実態が明らかになりました。2008年から2009年の1年間はアスリート約100名の増加に対してボランティア25名、コーチの増加は20名でした。これが続くとどのようなことになるのでしょうか。当然のことながらコーチの絶対数の不足はアスリートのレベルにあわせたトレーニングに支障をきたすこととなります。(低年齢アスリートの拡大はマンツーマンでコーチがつく必要もあります。)競技レベルがアップしても専門スキルをもったコーチは少ないことが実態です。

委員長退任にあたり(2008, 2009年ファミリー委員長 前原より)

2009年12月12日に2009年ファミリー委員から2010年ファミリー委員への引継並びに新委員長1名、新副委員長2名の選出を致しました。新委員長には多摩・陸上の阿部泰之さん、新副委員長にはフロアーホッケーの高橋真理さん、テニスの山崎多美子さんが選出されました。是非新メンバーでファミリー委員会を盛り上げていただければと思います。

2008年、2009年の2年間にわたり、慣れないところ、行き届かないところも多々ありましたが、多くのプログラムのファミリー委員の方々にご支援をいただきながら何とか2年間勤めさせていただきありがとうございました。この「ふくみみ」の編集、オヤジの会の設立運営、各種イベントへの参加、等々いろいろな事を企画し、運営してきましたが、これからは一歩離れた目でファミリー委員会をサポートできればと考えております。

FUKUMIMIは月次開催のファミリー委員会で取り上げられた議題の報告、委員会にてでた意見、委員からでてきた提案等をわかりやすく読める「かわらばん」です。ご意見やニュースを募集しております。ぜひ投稿をお願いします。

前原 聡

【編集後記】

今月とりあげた「コーチ不足」は現在、有志にて作成中である「son東京注記事業計画」の議論からでた資料からみなさんにわかりやすく身近に感じてもらうとして編集したものです。

でもこの議論は盛り上がりながらも、解決策はそんなに簡単にあるはずもなく、現場でどうにかするしかないことが現状です。

